

関係者各位

ほっかいどうさつぽろろうがっこう にほんしゅわ きょういく
北海道札幌聾学校における日本手話を用いた教育について

ほっかいどうきょういくいんかい めんだんけっか
北海道教育委員会との面談結果をお知らせします。

2022年3月16日に～関係各位あて～「北海道札幌聾学校における日本手話を用いた教育存続の危機的状況について」という文書がツイッターに発信されているとの情報提供が北海道ろうあ連盟にもありました。

次いで、3月23日には母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)学会会長 湯川 えみこ 及び理事一同「北海道札幌聾学校における日本手話を用いた教育の継続について」の声明発表がインターネットにあげられました。

また、3月24日には、「札幌聾学校の日本手話クラスの存続を!」の電子署名が始められていました。

こうした一連の動きと文書の内容について、北海道ろうあ連盟は3月30日に北海道教育委員会と次の点について面談の上、確認したことをお知らせいたします。

1. 日本手話による教育を無くする又は縮小する考えはないこと。
2. 札幌聾学校内では、当たり前前に手話によるコミュニケーションや教育実践が行われており、きこえない、きこえにくい子どもたちに対する配慮が通常から行われていること。
3. 日本手話による指導が可能な先生は確保されており、今後も必要な研修を引き続き実践していくことなどを通じて、その数を更に増やしていく予定であること。

北海道ろうあ連盟は、子どもたちの学力や豊かな心の成長を願う全国の仲間と共に歩む立場から、急遽話し合いをおこない、以上の点が確認できましたので、ホームページに掲載して、関係者各位にお知らせするものです。

みなさま 皆様におかれましても、冷静な対応をお願い申し上げます。

2022年3月31日

公益社団法人北海道ろうあ連盟

理事長 山根 昭治